

全分野		美術				
学年	第1学年	担当教員名	(加藤直樹), (高橋由紀雄)			
単位数・期間		2単位	通年	週あたりの開講回数	1回	必修選択, 履修単位
授業の目標と概要		自然や物、人物をよく観ることにより、豊かな感性、情操を身につけることができる。心をこめた作品づくりを通して、表現の巾が広がり、美術の楽しさを味わうことができる。基礎的「デッサン」「色づくり」を学び、表現技術を身につける。				
		釧路高専目標	A:100%	JABEE目標		
履修上の注意(準備する用具・前提となる知識等)		制作に必要な道具を忘れないこと。 (鉛筆B・B 2各1、消しゴム、絵の具セット一式等)				
到達目標		制作課題を受け止め表現することができる。				
成績評価方法		提出された課題(作品)を80%、授業態度(欠席、遅刻、道具の準備も含む)を20%ととして算出した点数の合計点により、合否判定を行う。60点以上を合格とする。最終評価は合否判定点と同じである。				
テキスト・参考書		美術・その精神と表現(現代美術社刊)一貸し出し制				
メッセージ		美術の楽しさ、おもしろさ、深さを体験しよう。				
前関連科目				後関連科目		

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1 ガイダンス・手のデッサン (1回)	<ul style="list-style-type: none"> ・美術表現のための道具について理解できる。 ・なぜ美術を学ぶのか、その目的を理解できる。 ・色は「つくるもの」であることを学び、身につけることができる(色の三原色について)。 ・モデル(手)を見て描くことができる。 ・モデルなしで描くことができる。
2 色をつくる (2回)	
3 色で描く(手を描く) (2回) 色で描く(抽象画) (3回)	
前期中間試験	実施しない
4 風景を描く (7回)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然をよく観て感じ、豊かな表現〔描写〕ができるようになる。 ・「三原色」からどんな色でも作れるようになる。 ・鉛筆下がきなしで描くことができる。
前期期末試験	
5 平面構成(彩色) (3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの基礎を理解できる。 ・「条件」をふまえて描くことができる。 ・色や面積のバランスを考慮することができる。
6 舞台装置デザイン (5回)	
後期中間試験	実施しない
7 立体構成(レリーフ) (4回)	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールなどを使って立体をつくることことができる。 ・折る、切る、曲げる、接着することで作品を制作できる。
8 自画像を描く (3回)	
後期期末試験	実施しない

到達目標			
1. 三原色と多様な色の関係を理解し、様々な色を作り出すことができる。 2. デザインの基礎を理解し、色や面積のバランスを考えて彩色することができる。 3. 折る、切る、曲げる、接着することで立体をつくることことができる。			
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	三原色から自分の思い通りの色を作り出すことができる。	三原色から自分のイメージに近い色を作り出すことができる。	三原色から自分のイメージに近い色を作り出すことができない。
評価項目2	デザインの基礎を理解し、様々な条件に従って、色・面積のバランスのとれた彩色ができる。	デザインの基礎をほぼ理解し、色・面積のバランスを考慮して彩色ができる。	デザインの基礎が理解できず、バランスを考慮して彩色できない。
評価項目3	イメージ通りの立体を正確に作る事ができる。	イメージに近い立体を作ることができる。	立体を作り上げることができない。

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				20	80		100
基礎的能力					40		
専門的能力					30		
分野横断的能力					10		